

オーストラリア剣道における指導文化の変容過程  
—ナショナルチームの事例を中心として—

古澤伸晃（日本体育大学）

剣道は、さまざまなスポーツと同様に世界中の地域に伝播してきた。しかしながら、剣道が国際普及を果たす中で他のスポーツと大きく異なる点は、剣道が持つ日本的な価値観をそのまま輸出し、定着させることを目指してきたことであった。こうした国際普及の方針を持っていても、やはり現地の価値観の中で剣道が理解されることも否定できない。一例をあげるなら、日本で生まれた剣道は、韓国にも伝播したが、その在り様は現在では大きく異なっている。日本では、一本を取るために相手の隙をつき、あるいは相手を崩して一撃で決めに行くのに対し、韓国では、とにかく連続攻撃をすることで相手に隙を作らせ、そこを決めに行くのである。こうした攻撃スタイルの違いは、それぞれの文化が持つ価値意識と大いに関係していると考えられる。

それでは剣道の国際普及はいかなる方法によって可能なのであろうか。本研究では剣道が国際普及を検討していくための一助として、オーストラリア剣道の事例を取り上げることとする。オーストラリア剣道を取り上げる理由は、本論で詳述するように「国際普及」を検討する上で示唆に富む事例になりうるからである。剣道の国際普及を考えたときに、まず、剣道をどのように理解して指導するのかという点は、非常に重要である。なぜなら、先述したように当該社会の価値観が影響した場合、当然、その指導の在り方も異なることになるからである。また、剣道指導は当該社会の文化の影響を受けると考えることができるとともに、その指導者の価値意識が影響を与えていると推察することができる。指導者の価値意識が指導そのものに影響を与えるとするなら、それは指導者の中にある価値観が、指導される側の剣道の価値観として再生産されることを意味しているからである。つまり、指導者個人の価値観は、指導を受ける側の全体に対して再生産されることになり、その指導者の指導を受けた者たちの中で共有される文化となるのである。本研究では、この様に指導者によって生成され共有される文化を「指導文化」として位置づけ、この「指導文化」に焦点を当てるものである。

本論文では、1960年代から2015年までのオーストラリア剣道に着目し、文化的・精神的な要素の強い日本の剣道がどのように受容され、捉えられてきたのかを検討し、オーストラリアナショナルチームの選手及び指導者を中心に、ナショナルチームにおける指導文化の変容過程を明らかにすることを目的とする。